

『小さな大国』

ニュージーランドの教えるもの

日本はニュージーランドに何を学ぶか

開催日時 2012年 6月23日(土) 13:00~16:00

開催場所 東北公益文科大学酒田キャンパス 大教室(301教室)

参加費 無料



◎基調講演



小松 隆二

(白梅学園大学理事長、学外研究員)

1938年(昭和13年)新潟県に生まれる。61年、慶應義塾大学経済学部卒業。経済学博士。同大学経済学部教授を経て、慶應義塾常任理事を歴任。専門領域は、社会政策、公益学。著書に『現代社会政策論』『ニュージーランド社会誌』『公益学のすすめ』『公益の時代ー市場原理を超えて』『公益とは何か』『大学地域論ー大学まちづくりの理論と実践』などがある。2001年、東北公益文科大学開学とともに初代学長に就任。ニュージーランド研究所初代研究所長。

◎シンポジウム

コーディネータ : 澤邊 みさ子
(東北公益文科大学准教授、学内研究員)

1. 「震災とエネルギー問題」

Stefan Corbett
(ニュージーランド大使館一等書記官)

2. 「非核政策」

高橋 康昌
(群馬大学名誉教授、学外研究員)

3. 「マオリの文化的資源」

澤田 真一
(弘前大学准教授)

4. 「行財政改革・大学改革」

水田 健輔

(東北公益文科大学教授、学内研究員)

東北公益文科大学ニュージーランド研究所創立10周年記念シンポジウム 『小さな大国』ニュージーランドの教えるもの 日本はニュージーランドに何を学ぶか

ニュージーランドは、国土面積が日本の4分の3、人口が約430万人の小さな島国です。しかし、世界で最初の8時間労働制や最低賃金制度、女性参政権、児童手当制度などを実現し、社会保障、先住民族問題、自然環境保護、非核政策、行財政改革などの幅広い分野において世界をリードする役割を果たしてきました。イギリス調査機関による「世界平和度指数」ではニュージーランドは2009年から2年連続「世界一平和な国」にランキングされており、また、2010年9月と2011年2月のカンタベリー大震災における迅速で民主的な救援・復興プロセスに対する注目も高まっています。

少子高齢化に伴う社会の変革、東日本大震災からの復興をはじめとする大きな課題に直面している日本社会にとり、ニュージーランドから学べることは多く、東北公益文科大学ニュージーランド研究所は2002年に日本における最初の総合的ニュージーランド研究機関として発足しました。本シンポジウムは日本ニュージーランド学会第19回研究大会との共催により開催し、これまでの研究所と学会の研究成果の中からテーマを4つに絞り、「小さな大国」ニュージーランドから日本が学べることについて紹介いたします。

【お問い合わせ】東北公益文科大学 公益総合研究センター事務担当

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1

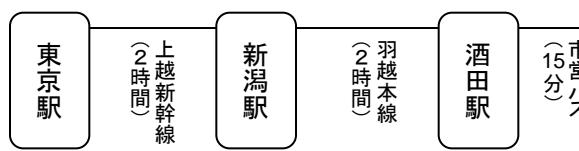
電話:0235-29-0555 FAX:0235-29-0556 E-Mail:nz@koeki-u.ac.jp

交通アクセス

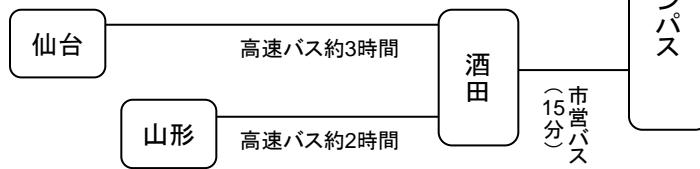
◎ 空路をご利用の場合 ◎



◎ 新幹線をご利用の場合 ◎



◎ 高速バスをご利用の場合 ◎



会場周辺MAP

